

田原市で生じる規格外トマトの活用に関する取組み報告



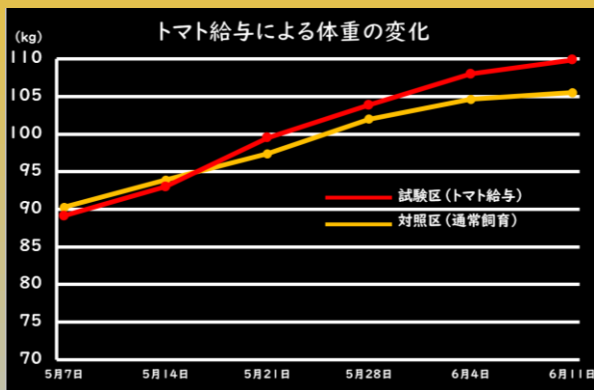
愛知県立渥美農業高等学校 動物科学部

【取組概要】

田原市は全国有数の丸玉トマトの産地である一方で、市内集荷センターでは毎日多量のトマトが規格外トマトとして廃棄されている実情がある。“規格外”とは、生産者から出荷後、市場の規格に合わないため選別され、販売されない状態のことである。トマトを始め、規格外野菜の発生は、廃棄コストや環境負荷を増加させることから「食品ロス」と並んで解決すべき課題とされている。渥美農業高校動物科学部では、以前より地域の未利用資源を家畜飼料として活用する取組みを実施していたことから、この規格外トマトも飼料として活用できるのではないかと考えた。

J A 愛知みなみトマト部会様より、実際に規格外トマトを提供していただき、リキッド状に加工して本校で飼育する黒豚の飼料として給与した。すると飼料への嗜好性が向上し、給与を継続すると増体が良くなることが確認された（グラフ1、図1）。

飼料化に成功した一方で、本校の養豚規模では少量のトマトしか活用できず、この問題の根本的な解決には程遠い。そこで、この活動を通じて生産した畜産物と、規格外トマトを加工した新商品開発に挑戦することにした。多くの地域の事業所の方々（図2）にもご協力いただき、高価な黒豚をミンチに使用したキーマカレーの開発に着手することができ、今年度の目標であった試作品完成を達成することができた。今後は、完成した試作品を商品化し、市内、また市外への販売を目指す。この活動はSDGs 17の目標のうち、多くの目標達成に直結する活動である（図2）。完成した商品のパッケージに工夫を施し、この活動、SDGs、学校、田原市の農業など、多くのことを広く伝える役割を持った商品としていくことを目指したい。



グラフ1. トマト給与による体重の変化



図1. トマト入り飼料を食べる豚と、加工する生徒



JA愛知みなみトマト部会
 田原市中小企業支援センター
 株式会社ヴィレッジ・フーズ
 三共食品株式会社
 有限会社REIWAHOO
 株式会社サイエンス・クリエイト
 田原市役所農政課

図2. ご協力いただいた事業所の方々(敬称略)



図3. この活動によって達成できる目標項目

渥美農業高校では、この取り組み以外にも、和牛甲子園への挑戦、JGAP認証への挑戦など、多くの活動を実施しています。

これら活動は学校HP内にも掲載しておりますので、ぜひご覧ください。→→→→→→→→→

担当:動物科学部顧問 尾崎 (0531-22-0406)

